

建設業における働き方改革の推進

調達手続きの一元化システム「阪神高速版調達ポータル(PROZIT)」を2025年度から一部工事で試行導入しました。今後も試行範囲を拡大し、すべての工事・業務への導入を目指しています。

また、「阪神高速・工事情報等共有システム(Hi-TeLus)」は、受発注者間における円滑な情報共有や各種手続きの簡素化・効率化を通じて、工事・業務情報の利活用を可能とするシステムとして、すべての工事・業務に導入しています。さらに、各種データを有効に活かすため、データ蓄積および利活用基盤の構築を見据えた情報プラットフォームの整備を進めています。

Hi-TeLusによる契約後から工事、検査までの電子化に加え、PROZITの導入による調達から契約締結までの範囲においても省力化・効率化を図っていきます。DXの推進を通じて、建設業における生産性の向上や業務効率化を図り、働き方改革に貢献していきます。



PROZITおよびHi-TeLusの活用による
業務効率化

チャレンジアップ運動、CS表彰

改善・改革の意識・風土を阪神高速グループ内に拡げることが目的に、身近な課題の解決に向けて社員が行った取り組みなどを称え共有する「チャレンジアップ運動」や、社員のCSマインド向上・モチベーション向上を図ることを目的に、日々の業務を通じて“お客さま満足”につながる行動をとった社員に対して「CS表彰」を実施しています。



チャレンジアップ運動・CS表彰合同表彰式

VOICE

次世代のモビリティ社会を見据えた自動運転支援

関西の暮らしと経済を支える阪神高速として、次世代のモビリティ社会を見据えた自動運転支援を進めています。

その第一歩として、大阪・関西万博の開催期間中、道路側のセンサーで検知した情報を自動運転バスへリアルタイムに提供し、合流部における安全な走行を支援しました。この最先端技術を、1万5千人を超える方々に体験いただきました。

今後は、自動運転車両を含めたすべてのお客さまへの安全・安心・快適な道路交通サービス提供のため、自動運転車両が走行可能な道路環境整備や、路車間協調などの自動運転技術の確立と実装に向けて取り組んでいきます。



阪神高速道路株式会社
計画部調査課
課長代理
岩里 泰幸